

K3-P004

時間：6月8日 17:00-18:30

幌満カンラン岩のスピネル-輝石・シンプレクタイトの組成変化-相変化とメタソマティズムに関連した微量元素の再分配-

Geochemical evolution of a symplectite from the Horoman: redistribution of trace elements on phase transition and metasomatism

森下 知晃[1], 荒井 章司[1]

Tomoaki Morishita[1], Shoji Arai[2]

[1] 金沢大・理・地球

[1] Earth Science, Kanazawa Univ., [2] Dept. Earth Sci., Kanazawa Univ.

幌満カンラン岩体最下部のスピネル・レルゾライト中のスピネル-輝石・シンプレクタイトの組織の定量的記載と、主要・微量元素組成を測定した。その結果、シンプレクタイトはザクロ石の分解物で、HREE, Ti, Zr はザクロ石の組成を保持しているのに対し、LREE と Sr はシンプレクタイト形成後のメタソマティズムによって、試料内で再平衡に達していると思われる。

幌満カンラン岩体最下部のスピネル・レルゾライト中のスピネル-輝石・シンプレクタイトの組織の定量的記載と、主要・微量元素組成を測定した。その結果、シンプレクタイトはザクロ石の分解物で、HREE, Ti, Zr はザクロ石の組成を保持しているのに対し、LREE と Sr はシンプレクタイト形成後のメタソマティズムによって、試料内で再平衡に達していると思われる。